

二瀬ダム工事報告書

二瀬ダム工事事務所編 KK技報堂印刷

二瀬ダムは荒川上流部にある特定多目的ダムで昭和36年に竣工したものである。ダムは堤高95mの厚肉アーチ式コンクリートダムで総貯水容量26900000m³により、ダム上流170km²からの洪水流量1500m³/secを800m³/secに調節し、また、貯水を放流して、下流8600haの農地の用水を確保し、さらにダムによる落差を利用してダム直下で最大出力5150kWの発電をするものである。

ダム地点の地質は下流側チャート、輝緑凝灰岩、堤体から上流側に千枚岩質岩が分布している。種々のダム形式について経済性の検討を行ない、また、ボーリング、弾性波調査、試掘横坑、弾性係数測定などの地質調査の結果および模型実験などによる応力解析の結果、現計画の厚肉アーチダムを採用した。

主放水設備としてダム本体内に2本のコンジットを設け、この出口に高圧ラジアルゲートを、呑口にはキャタピラゲートを設けて800m³/secの放流をし、非常用の放水設備としてダムクレストに越流スキージャンプ式余水吐を設け700m³/secを処理する。

この報告書は計画の概要、調査、設計ならびに工事の

順序にしたがってくわしく報告している。一般にこの種の工事報告書は数字と表の羅列に終り、その道の専門家以外は読みにくいものであるが、本書は全体的に簡明にわかりやすく書いてあるのでアーチダムの専門家にはもちろん、今後この種の工事に始めてたずさわる人々の手引としても大いに参考になるものと思う。一例をジョイントグラウトの章にとれば、第1節概要、第2節計画、第3節ジョイントグラウト実績、Iジョイントグラウティングの必要性、IIジョイントグラウトの時期、IIIジョイントの規模、IVグラウティングの設備、Vグラウト圧に関する規制と実際、VIグラウトの配合、VIIジョイントグラウティング、VIII実績と結果。

特に第13章には掘削中にダム左岸の面に起きた地すべりについて、発生の経緯を述べその対策について詳述しているの、現在ダム周辺で問題にされている地すべりに対しては大いに参考になるものと思う。

体裁：B5判 418ページ 1963.10.30刊

注) 本書は非売品ですが学会に備付けがあります。

[通産省 原田信昭・記]

鹿島研究所
出版会

東京・芝田村町5-9
浜ゴムビル5階
振替東京 180883

PERT・CPMの理論と実際
新しい工程管理

A.J.ウォルドロン
出版鹿島研究所
訳所
<近刊>

建設業成功の秘訣

L.ミラ
出版鹿島研究所
訳所著
¥680

工事原価管理

佐用泰司著
¥500

ジョイント・ヴェンチュア・法博
共同企業体

鹿島守之助著
¥350

軟弱粘土の圧密
新圧密理論とその応用

大坂市立大学助教授 工博二笠正人著
土木学会賞受賞

B5判/七五〇円

海外の土木技術 第二集

鹿島研究所出版会編

A5判上製/六〇〇円 千八〇円

土地
造
成

土木学会監修

A5判上製/一〇〇〇円 千二〇〇円

土地づくりの指針として必備の書。
近年のいちじるしい土地造成の要求にとまない、住宅用地・工業用地・農業用地または大都市周辺の開発や、地方都市の育成について、それぞれの専門家が執筆したもの。(図書目録呈)